

令和3年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基本的な計算の達成率は7割～8割であり、前年度より1割ぐらい上回った。
- ・学力の個人差に対応するために、学習を習得していない児童を対象に補習学習を行った。
- ・全学年で学習規律の徹底を図り、主体的に学ぶ意欲を醸成するために期末テストを実施した。
- ・東京ベーシックドリル診断テストを学期に2回実施・集計し、誤答があった児童に向けて補習等を通して習熟させた。

(2) 課題

- ・期末テストに向けて作成した学習計画表をもとに、個人で決めた目標に向かって、引き続き自ら継続して学習できるようにする。
- ・思考、判断、表現の正答率が区の平均正答率より、下回っている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	正答率 +3.9	/	/
第5学年	正答率 -2.6	正答率 -3.8 (第4学年時)	/
第6学年	正答率 +0.9	正答率 -4.9 (第5学年時)	正答率 +8.2 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を8.9ポイント上回った。	4年生は、目標値を8.5ポイント上回った。	4年生は、目標値を5.5ポイント上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は、目標値を2.6ポイント下回った。 6年生は、目標値を2.3ポイント下回った。	5年生は、目標値を1ポイント上回った。 6年生は、目標値を0.1ポイント下回った。	5年生は、目標値を11.3ポイント下回った。 6年生は、目標値を4.5ポイント下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図や数直線などの意味や使い方、読み方などを理解できるように繰り返し指導する。そして、具体物を操作する活動を多く取り入れたり、プリントを活用したりして既習事項を繰り返し指導する。既習事項の繰り返しとして東京ベーシックドリルを活用し、基礎的、基本的な知識や技能の定着を目指す。	自分の考えを図や式などを用いてわかりやすくノートにまとめさせたり、考えを発表させたりする活動を増やす。また、児童がイメージしやすいよう、身近な場面を問題として取り上げる。	数量や図形に親しみをもたせるために、具体物の操作など、児童の興味を引くような教材の工夫をする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体的な操作を伴う算数的活動を通して、問題解決して、量や長さ、面積、測定の単位の意味が理解できるようにする。そして、四則計算の習得を確実にするため、授業や土曜補習で繰り返し練習させる。また、三角定規、分度器、コンパスなどの道具を使いこなすための反復練習を行い、基本的な内容が身につくようにする。	ペア学習やグループ学習などを取り入れ、課題解決の際に自分の言葉で説明できる場面を多くもつ。問題の解き方を考える際、図や式、線分図、数直線などを活用しながら自分の考えを表現できるようにする。	個人の到達度を見える形で表し、学習に取り組むことの達成感を味わわせる。少数指導の指導により、できる実感を味わえるようにする。コースの実態に応じて、発展的な内容などを取り入れることで児童の意欲を喚起する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
テープ図、線分図、数直線などをノートに書き、筋道立てて考える習慣を身につけ、知識や技能を確かにする。また、四則計算の習得を確実にするために、授業や土曜補習で繰り返し練習させる。東京ベーシックドリルなどを活用し、能力に合わせてスモールステップで問題に取り組ませるようにする。	自分の考えを図や数直線など様々な方法で表し、ペア・グループやクラス全体で考えを広げ、深める場を設ける。既習内容を活用して、問題に取り組んだり、友達の考えと自分の考えを比較したりする。	学習内容が生活や社会とつながっていることに気づかせるなどして、学ぶことの有用性を感じさせる。コースの実態に応じて、既習事項を振り返ったり、発展的な内容などを取り入れたりすることで、児童の意欲を喚起する。